帯広市立愛国小学校　学校だより

あいこく

令和７年１２月１２日（金）発行　No.１６　文責　校長　合田　真晃

学校教育目標

豊かな心で協力しあえる子ども
自ら学び創造し深く考える子ども
何ごとにも進んでやりぬく強い子ども

笑顔を広げる取組がいっぱい！

12 月９日（火）に、ＰＴＡ教養部親子体験学習として、「モルック体験教室」が行われました。モルックはフィンランド発祥で、木の棒（モルック）で数字が書かれた木のピン（スキットル）を倒して点数を競うニュースポーツです。ピンを１本だけ倒せばその数字、複数本倒せばその本数が得点となり、先に 50 点ぴったりになったチームの勝ちですが、超えると 25 点に戻ってしまうというルールです。子どもたちにとっては、チーム内でのコミュニケーションが必要だったり、得点計算をするのに計算力が鍛えられたりと、遊びを通じていろいろな能力が身につくというメリットも感じられました。そして何より年齢も性別も関係なく、同じ土俵で全力で楽しめる魅力をたっぷりと感じることができました。素敵な時間を作ってくださった教養部のみなさん、本当にありがとうございました。

体育館のあちこちで笑い声が響き、大人も子どもも心から楽しめる時間となりました。

ねらい通りにピンが倒れたときには大歓声！笑顔の輪が広がりました。

学校だより NO.１４でもお伝えしましたが、児童会が主体となっての楽しい学校作りが進んでいます。「交流給食」「KOE タイム」などを通じ、他の学年の子と一緒に給食を食べたり、色々な話をしたり、遊んだり…。こうした取組によって笑顔が広がるだけでなく、学年を越えた絆が深まっていくことを感じます。小さな学校ならではのよさを最大限に生かして、今後もいろいろな Challenge をしたいです。

今回は給食配膳員の三浦さんも一緒に会食！年齢や立場を越えた笑顔が広がりました。

１１月の KOE タイムは、“先生 vs 子ども”のドッジボール。対決は真剣勝負の結果、１勝１敗の引き分けでした。（ジャンプボールはなんと校長が…。ジャンプ禁止で勝負し、６年生が見事に勝利！）

１２月の KOE タイムは、“ワニの川”。ワニに捕まらないように反対側まで駆け抜けます。捕まえる方も逃げる方も真剣ですが、やはり笑顔がいっぱいに。みんなで楽しむのって最高！

帯広市の食育指導専門員さんが、JICA との授業を終えたあとにこんな感想を我々に伝えてくれました。

「１学期の頃に授業をしに来たときの印象から、愛国の子どもたちはどちらかと言えばシャイなので、あまり多くの発言が出ないだろうという想定で授業を作ってきたのですが、たくさんの子が積極的に、しかも自分の言葉で発言してくれたことに驚きました！１学期からの大きな変化を感じてすごい！と思いました。」

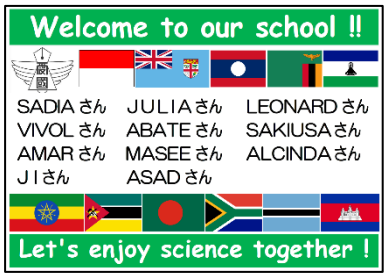
学校としてみんなで力を入れて取り組んできている“子どもを主体とした取組の充実”による子どもの姿の変化を、しばらくぶりに学校に来たからこそ強く感じてくれたのだと思います。子どもたちの変化と成長は本物です。今後も、もっともっと子どもたちのよい姿を引き出せるよう、全教職員で尽力して参ります。

↑ 上の吹き出しは、スペースの都合で表面にありますが、裏面を先に読んでいただくと話の流れがスムーズです。

愛国小に１５か国から１６人が来校！

愛国小学校では今年度、『外部の力を生かした教育活動』を重点の一つとして教育活動を進めてきています。今回はその究極とも言える“海外の人たちの力”を生かして、子どもたちの視野を広げるために JICA の研修員を学校に招きました。

１１月７日（金）、１１か国から１１名が来校し、３・４年生の理科の授業を参観しました。このメンバーは、理科教育の質的向上を目的に、それぞれの国で理科教育を推進する立場の研修員（日本で言えば文部科学省の官僚のような人たち）の研修プログラムで、日本の理科授業の実際を学びに来ました。彼らの国では、“教科書を見ながら説明して終わり”という授業も当たり前ということで、子どもたちが自ら実験や観察をしながら学ぶ様子や、複式の授業で同時に違う２つの内容を学ぶ子どもたちの様子に、大きな感銘受けながら参観している姿が印象的でした。



１２月３日（水）には、５か国から５名が訪れ、全校児童との交流と食育の授業を参観しました。このメンバーは、それぞれの国で母子栄養の改善を進める立場（その国の保健省の職員など、行政を担う人たち）にあり、途上国で依然として喫緊の課題である母子栄養状態の改善プログラムを作成するための研修を進めています。そのため、愛国小学校で取り組んでいる「あぐり愛国」や、帯広市の食育プログラムに基づいた授業などを、目をキラキラと輝かせながら学んでいました。

研修員にとっては、プログラムの目的に沿った学びはもちろんですが、“外国”である日本の学校で子どもたちと直接の触れ合いをもてるというのは、実はとても大きな楽しみのひとつでもあります。子どもたちの“視野を広げる経験”と、研修員の“日本の子どもとの触れ合い”は、まさに Win-Win の関係で、１２月の訪問の際には直接交流する時間をたっぷりと設定することができました。

その国の言葉であいさつをしたり一緒に遊んだりする中で交流が深まり、「将来他の国へ行ってみたくなった」という感想も聞かれました。今回の経験が子どもたちにとって貴重な財産になったことを感じます。広い視野と大きな夢をもつ素晴らしい時間となりました。